

## 高病原性鳥インフルエンザの蔓延防止に向けた自主的取り組みについて

令和7年9月9日

一般社団法人千葉県農業協会養鶏部会

千葉県内の養鶏場が密集する地域で2024年／2025年シーズンにおいて、高病原性鳥インフルエンザが短期間に連続的に発生しました。

今後同じような事態を繰り返さないために、発生した当協会会員が集まり検討した結果、蔓延防止に向けた以下の対策を提案します。

なお、本取り組みは、周年での実施が望ましいと考えますが、これまでに発生が見られた10月から5月の間を重点対策期間として実施します。

### 鶏舎内観察に一工夫！

#### 1 感染鶏の早期発見のための鶏舎内観察方法について

発生鶏舎内においてウイルス感染が広がり、ウイルス濃度が上がることでウイルスの飛散による他農場への蔓延が心配されることから、極力早期発見が必要と考えられます。

##### ア 感染鶏早期発見のための方法

同一または隣接ケージでの鶏の連続的な死亡鶏を見回り担当者が変わっても気づくことができるようにするために以下のいずれかの方法で実施しましょう。

##### ① マグネット装着法

- a 死亡鶏を発見したケージにマグネットを装着する。
- b 翌日において、周囲も含め異常がなければマグネットを外すが、隣接ケージも含め死亡鶏がいれば異なる色のマグネットを追加装着する。
- c 3日連続で死亡鶏を確認し、マグネットが装着されたら通報、または簡易検査を実施する。

##### ② 洗濯バサミ装着法

マグネットを洗濯バサミで代用し、同様に対応する。

##### ③ 記帳方式

ケージ全てに番号を標記し、死亡鶏発見ごとに期日とケージ番号を記帳する。管理者はそのメモをチェックする。

#### 2 留意点

作業が煩雑になることから経営者と実施者（従業員）において十分なコミュニケーションを取ることが重要です。

## 早めに疑ってみよう！

### 1 自主検査の実施について

高病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針によれば、「同一の家きん舎内において、1日の家きんの死亡率が対象期間（当日から遡って21日間）における平均の家きんの死亡率の2倍以上となっている場合には届け出ることとなっていますが、重点対策期間においては次の自主判断指標に基づき自主検査または家畜保健衛生所に届け出ることとしましょう。

### 2 成鶏の死亡羽数の自主判断指標

日齢	日齢	週齢	正常死亡 /1万	正常死亡 /2万	正常死亡 /3万	正常死亡 /4万	正常死亡 /5万	正常死亡 /6万	異常死亡 /1万	異常死亡 /2万	異常死亡 /3万	異常死亡 /4万	異常死亡 /5万	異常死亡 /6万	
120	~	150	22	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
150	~	180	26	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
180	~	210	30	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
210	~	240	34	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
240	~	270	39	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
270	~	300	43	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
300	~	330	47	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
330	~	360	51	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
360	~	390	56	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
390	~	420	60	1	2	3	4	5	6	2	4	6	8	10	12
420	~	450	64	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
450	~	480	69	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
480	~	510	73	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
510	~	540	77	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
540	~	570	81	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
570	~	600	86	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
600	~	630	90	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
630	~	660	94	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
660	~	690	99	2	4	6	8	10	12	4	8	12	16	20	24
690	~	720	103	3	6	9	12	15	18	6	12	18	24	30	36
720	~	750	107	3	6	9	12	15	18	6	12	18	24	30	36
750	~	780	111	3	6	9	12	15	18	6	12	18	24	30	36
780	~	810	116	3	6	9	12	15	18	6	12	18	24	30	36

### 3 育雛鶏の死亡羽数の自主判断基準

餌付けから10日くらいまでは死亡率が高いため注意深い観察と状況に応じた届け出を考える必要があります。

なお、餌付け後3週以後はほとんど死ぬことはなく、同一ケージ内で複数の鶏が死亡していたり、連続で死亡が確認された場合は、成鶏と同様に自主検査または家畜保健衛生所に届け出ることとしましょう。

## 簡易検査キットを準備しておこう！

### 1 シーズン前の簡易検査キットの準備について

発生の早期発見に努めるためシーズン前に各農場で簡易検査キットを準備しましょう。

県の指導を仰ぎ、検査キットの正しい利用方法や注意点等を明確にしてもらい、判断に間違いが無いように努めましょう。

なお、自主検査を実施した場合には、陰性においても家畜保健衛生所に届け出ることとし、家畜保健衛生所との連携を日頃から深めておきましょう。

- 2 自主検査の必要性を喚起するために千葉県農業協会は、農場ごとに簡易検査キットが購入しやすい環境を作ります。

### **感染は発見鶏舎だけにとどめよう！**

- 1 発生農場においては、農場全体のウイルス濃度が高まることで周辺農場にウイルスを飛散させるリスクにつながることから、感染を発生鶏舎だけにとどめ、殺処分が終了するまでの間、他鶏舎に感染を広げないよう家畜保健衛生所と協議する必要があります。
- 2 そのためにも、他鶏舎の鶏にストレスを与えないよう給餌を続けることが望ましいと考えます。
- 3 また、観察を続け、他鶏舎での感染が疑われる場合には、殺処分の優先順位等について家畜保健衛生所と協議することが必要です。

### **殺処分時にウイルスを飛散させないようにしよう！**

- 1 殺処分時に発生鶏舎内部のウイルスを外部に飛散させないためにも、排気ファンに不織布を張り消毒薬を散布するなど（排気ファン外側に寒冷紗やネットでも可）塵埃の飛散防止について家畜保健衛生所と協議しましょう。
- 2 近隣他農場での発生の情報を得た農場は、入気フィルターにフィルターを設置するなど防疫体制の強化に努めましょう。
- 3 殺処分終了後における清掃時には、感染鶏が確認された鶏舎では塵埃を外気に飛散させないようにエアコンプレッサーの使用は控えることが望ましいと考えます。

### **地域で情報を共有しよう！**

24／25シーズンの連続的発生を繰り返さないためにも、養鶏場密集地域内の農場間での情報共有が可能となる体制を皆様で作っていきましょう。